博士課程教育リーディングプログラムフォローアップ報告書（平成24年度）

博士課程教育リーディングプログラム委員会

<table>
<tr><td>プログラム名称</td><td>グローバル原子力安全・セキュリティ・エージェント養成</td><td>申請大学名</td><td>東京工業大学</td></tr>
<tr><td>申請大学長名</td><td colspan="3">伊賀　健一</td></tr>
<tr><td>プログラム責任者</td><td colspan="3">丸山　俊夫</td></tr>
<tr><td colspan="4">１．進捗状況概要
・当初計画に従って着実にプログラムが実施されており、熱意が感じられる。
・強力な指導・運営・実施・支援体制が構築され、規則整備も概ね完成された。実質的な教育が開始されており、本格実施に向けての準備が精力的に進められている。
・審査意見の留意事項の各々に対して妥当な検討がなされ、計画が強化されている。
・全寮制道場や国際連携の具体化、特殊性の高い科目の準備が着実に進められており、優位性の高い特色あるプログラムの実施に向けて努力が続けられている。
・運営委員会、企画委員会、実施委員会（各教育を担当する班を含む）、自己点検評価委員会からなる強力な体制が構築されるとともにリーディング大学院支援室も設置され、実質的活動がなされている。
・学内規則や大学院学則の整備が着実に進められている。企業所属専門家参画のための規則など一部未整備な点も課題が明確化されている。
・外国人を含む外部評価委員会が組織され実質的な議論と提言がなされている。
・特任教員採用による指導体制強化がほぼ順調に進められている。外国人特任教員採用はやや遅れているが、IAEA との連携を含めた構想実現に向けて努力がなされている。
・カリキュラム構築と教員役割分担の具体化が着実に進められている。また一部新設科目の教材準備が始められている。
・全寮制「世界原子力安全・セキュリティ道場」のための施設が確保され 10 月開設に向けて準備が進められている。
・新入学生に対してコース室制度とラボ・ローテーションが実施されている。
・福島フィールドワークや、国内外専門家と学生の国際セミナーが実施された。
・優秀な学生を確保するため、ホームページへの掲載、パンフレット配布、説明会開催、海外への PR などの広報活動が極めて積極的になされている。
・心配された放射線計測機器の早期調達も概ね順調になされ、活用が始められている。

２．意見（改善を要する点、実施した助言等）
・当面の最大課題である優秀な学生確保に向けて最大限の努力を続けて頂きたい。社会人入学制度を活用した工夫も望まれる。
・人文社会学系出身者受入れに関しては、広く門戸を開き人材を求める観点は理解できるが、専門基礎知識不足による困難が危惧されるので、選抜実施方法や目標とする専門家像を含めて、慎重に検討を続けてコース設計を行って頂きたい。
・大学院学生の研究テーマ選択に関する指導とその高度化にも注力することが望まれる。
・道場師範代としての教員の合宿指導について、教員各層間の意識統一や役割分担及び負担調整に留意しながら、具体化を進めて頂きたい。
・閉鎖性が高まる危惧への対策としてシラバスや講義教材の公開も検討して頂きたい。</td></tr>
</table>